

## 第3節 “とちぎ”の文化・魅力づくり

“風”<sup>(かせ)</sup>をおこす ～ここから世界へ、さらなる夢と希望を実現するために～

国際化の進展や地球規模での競争の激化、人々の意識や生活様式の多様化が進む中で、内外との活発な交流により地域から新しい動きや創造力を生み出していくことが重要となっている。中でも、地域の歴史や文化は、地域の魅力を高め、世界に発信していく上で重要な役割を果たす。

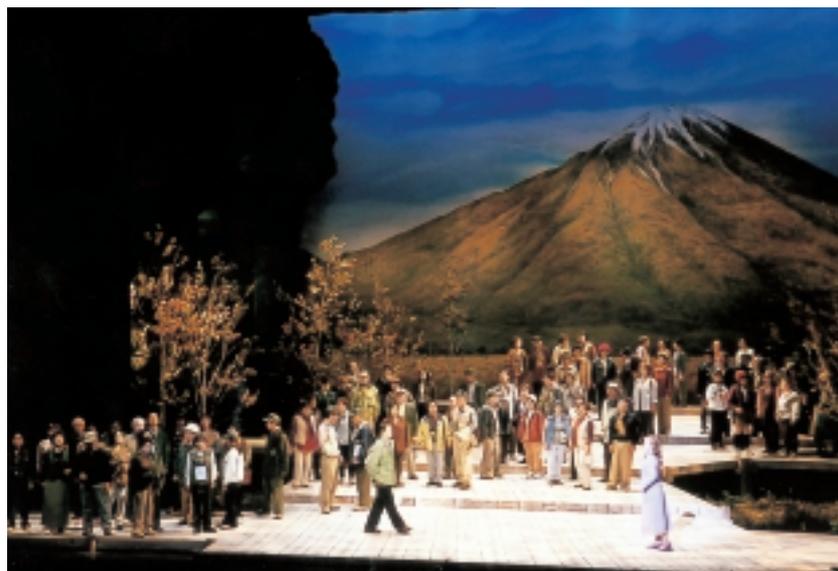
本県は、恵まれた立地条件や豊かな自然、長い歴史にはぐくまれてきた多様な文化、そして誠実で勤勉な県民性を有している。

そこで、本県の歴史がつちかかってきた文化や伝統などを大切に引き継ぎながら、今に生きる一人ひとりが、さらに新しい“とちぎ”の文化

を育てていく。

また、世界の人や文化と顔が見える身近なかかわり合いをつくり上げ、世界や本県の文化の素晴らしさを実感し、それを通して本県の魅力を再確認し、世界に伝えていく。

“夢ときめく交流社会”に向け、本県の優れた特性を活かしながら、様々な風を呼び込み、通わせることにより、新たな行動や創造性、文化などを生み育て、本県の魅力を積極的に発信したり、本県の魅力や資源を活かした国際貢献を行うなど、これまでの“とちぎ”を超えた文化・魅力づくりを進めていく。



オペラ日光

## 1 新しい“とちぎ文化”の創造と継承

### 課題と目指す方向

新たな時代において、人々が心豊かで質の高い生活を送り、創造性に富んだ活力ある社会を築いていくためには、人々の心のよりどころとなり、社会を支える基盤となる文化を創造していくことが重要となる。

本県は、四季が織りなす色鮮やかな自然に恵まれ、長い歴史の中で先人たちがはぐくんできた多彩な文化を有しており、今後はこれまでつちかわれてきた文化を伝承し、その基盤に立って新たな文化を創造し、広く内外に向けて発信することが求められている。

また、県内の各地域には、長い歴史と先人たちのたゆまぬ努力により受け継がれてきた多くの文化財や伝統行事、伝統芸能等がある。

これらのかけがえのない文化遺産を共有の財

産として、次の世代に伝えていくことも、私たちに課せられた責務である。

このため、生涯を通じて文化を身近に感じ、個性豊かな文化活動を活発に展開できる環境を整備するとともに、地域の大切な文化遺産の保護・継承に努め、一人ひとりが楽しみながら新しい“とちぎ”の文化をつくりあげ、心の豊かさを実感できる“とちぎ”を目指す。



愛宕神社祭礼（黒磯市「百村百堂念仏舞」）

### 取組の方向

#### ○文化情報のネットワークの形成

充実した文化活動を展開していくためには、文化に関する多様な情報が容易に入手できる環境づくりが必要である。

このため、文化に関する多様なネットワークを構築し、“とちぎ”発の文化を広く国内外に向けて発信していく。

- 美術館、博物館、文化会館、文化施設等のネットワークの構築
- 県、市町村、文化団体等の文化情報に関する総合的な提供システムの構築

など

#### ○多様な芸術文化に参加・発表する機会の充実

多彩で自由な文化活動を展開していくためには、文化を担う人材の育成はもとより、発表機会の充実を図ることが必要である。

このため、文化活動を国内外の各地域で発表する機会の充実を図っていく。

- 芸術文化の発表機会の充実

など



新進音楽家演奏会「コンセール・マロニエ21」

### ○総合的な芸術文化拠点の形成

生涯を通じて文化を身近に触れることができる環境整備が求められている。このため、長期的な視点に立った総合的な芸術文化拠点の形成を進めていく。

- 美術館、図書館等を核とした芸術文化の拠点づくり

など

### ○地域文化の継承

文化遺産は地域コミュニティの活性化を始め、うるおいのあるまちづくりや地域の観光資源などの核となるものである。

このため、地域コミュニティの再生による活力ある生活空間の創造を図るとともに、文化遺産に係る後継者・技術者等を育成し、先人から守り伝えられてきた文化遺産を私たちの誇れる地域文化として伝承していく。

- 文化遺産保護のための後継者・技術者の育成
- 地域コミュニティ再生による地域文化の保存伝承
- 学校教育や生涯学習による伝統芸能、工芸の保存

など

### ○地域を核とした食文化の創造

伝統料理等の普及や地産地消の振興は、「食」という文化的資源を活用するもので、地域経済を活性化するだけでなく、地域の特色やアイデンティティの確立につながるものである。

このため、本県ならではの健康的で魅力ある食文化を発掘・創造していく。

- 伝統料理の普及や新たな郷土料理の考案等による食文化の創造
- 地域おこしと連携した地産地消の推進

など

餃子（宇都宮市）



カクテル（宇都宮市）



いも串（佐野市）



佐野ラーメン（佐野市）

## 2 世界の国とのパートナーシップ

### 課題と目指す方向

地球温暖化、砂漠化などの地球環境問題や、今なお続く難民や貧困など、地球社会全体でその解決に向けて取り組まなければならない課題が顕在化、深刻化している。

また、ボランティア活動や\*NGO活動による国際貢献を行いたいという人が増えてきており、こうした自主的活動を促進するための環境整備が求められている。

このような中で、これまで、自然環境との調和を図りながら、各産業がバランスよく発展してきた本県が蓄積している技術やノウハウは、こうした国際貢献に大いに役立つものである。

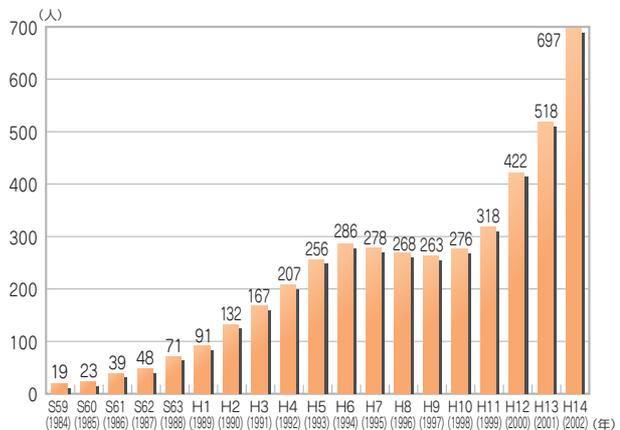
一方、本県人口に占める外国人の割合は、留学生や労働者としての受入れなどにより、1.5%を超えており、全国的にも高位にあるが、年々増加傾向にある。

今後、外国人は私たちの日常生活においてますます身近な存在となることから、隣人としての外国人との共生という課題が表面化してくる。

今日のグローバルな時代を迎え、次の時代の“とちぎ”を創造し、飛躍していくために、国際規模での交流を促進していく。

そして、一人ひとりが国際協力など様々な活動に取り組み、地球社会の一員として貢献するとともに、外国人の持つ文化や多様性を受け入れ、そして理解し、外国人にとっても暮らしやすさを実感できるような地域づくりを進めることにより、新たな風を呼び込み、世界の国とのパートナーシップの構築を目指す。

栃木県内の高等教育機関に在学する外国人留学生数の推移



資料：栃木県地域留学生交流推進協議会調べ

### 取組の方向

#### ○開発途上国などへの貢献

国際協力活動のすそ野を広げるため、開発途上国などへの国際協力活動に一人ひとりが自主的に取り組んでいこうとする意識をはぐくんでいく必要がある。

このため、学校教育を始め多くの場面において、国際理解に関する学習や情報提供を充実していく。

- ボランティアやNGOによる自主的な国際貢献活動を促進するための環境整備
- 国際理解教育の推進

など

【NGO (Non-Governmental Organization)】 民間非政府組織。「非政府」という観点に着目した表現であるが、NPOと同様に非営利の組織である。日本では、国際協力の活動を行っている団体に対して使われることが多いが、活動分野を限定するものではない。

### ○海外の人々との交流

海外からの研修員等の受入れや海外への派遣は、直接人の交流によって技術やノウハウを交換するもので、地域からの国際貢献としては最も効果的なものであるとともに、人的ネットワークにもつながるものである。

このため、海外支援のための人材の受入れ、派遣を積極的に推進する。

- 海外支援のための技術研修員の受入れ、派遣

など

### ○国際交流活動の日常化

外国人を隣人として受け入れ、地域に根付いた国際交流活動を行っていくことにより、相互に理解を促進し、それぞれの地域において国際感覚豊かな人材の育成を図る。



とちぎ国際フェスティバル

- 地域住民同士の交流活動（イベント等）の開催
- 国際交流団体の共同事業の実施

など

### ○外国人も暮らしやすい地域づくり

県内に居住する外国人や、観光等により来訪する外国人の増加に対応するため、適切な情報提供手段の確保や相談窓口の開設など、生活の向上を図る上からも、外国人が親しみやすく、暮らしやすい地域をつくっていく。

- 地域密着型の日本語教室の開催
- 通訳ボランティアの配置（総合病院、郵便局等の公共機関）
- ITを利用した各種生活情報の提供

など

### 3 驚きと感動の“とちぎ”づくり

#### 課題と目指す方向

本県の知名度は、これまでのPR事業により上昇してきているが、自然環境や歴史遺産、観光地など本県の実力に比べると、その魅力に対する認知度はいまだ十分とはいえない。

また、栃木県と聞いて想起されるものには、「日光」、「いちご」などが挙げられるが、他県の人から見ると、「栃木県」という名前は知っているが、「栃木県」からすぐに思い浮かぶ具体的なイメージはあいまいで、まだ十分に浸透しているとは言えない。

また、グローバル化と高度情報ネットワーク化の流れの中で、本県が情報が注目されるよう、情報発信に今まで以上の創意と工夫が必要となっている。

このため、優れた自然や文化、歴史遺産、全

国にアピールできるスポーツなど、本県の魅力を掘り起こし、再発見しながら、地域の個性をアピールする文化を育て、まず県民自身が郷土の魅力について明確なイメージを持ち、全国に郷土のイメージを発信していけるような気運を醸成する。

楽しく夢のあふれる郷土にするために、本県の魅力を今一度再確認しながら、さらに磨きをかけ、新たな魅力をつくり出していく。それにより、驚きと感動のある“とちぎ”づくりに新たな気持ちで取り組み、それを県民が意識し、育て、自信を持って外に向かって発信していくことで、“とちぎ”から新たな風をおこし、本県の魅力を再構築していく。



山あげ祭（烏山町）

## 取組の方向

### ○“とちぎ”の魅力の発信

“とちぎ”の魅力を全国に発信していくため、文化や風物など、イメージを高めるシンボルを掘り起こし、PRに努める。また、その発信に当たっては、まず一人ひとりが魅力を認識し、情報発信の役割を担うことが必要である。さらに、新たな時代のメディアも視野に入れ、多様な媒体を活用して、全国に“とちぎ”の魅力情報を発信していく。

- デジタル多チャンネル時代に対応した、栃木県情報発信コンテンツの検討
- グローバル化に対応した海外向けの情報発信の強化

など

### ○地域の個性をアピールする文化づくり

魅力ある地域づくりのため、人々が主体的に地域活動に参加することが求められている。

民話や伝統芸能など郷土の伝統文化を継承する活動は、参加する人々にとって、自己啓発、自己実現につながるるとともに、郷土に対する愛着、理解、関心を高めることになる。

このような既存の文化を掘り起こすとともに、地域社会における新たな魅力を見い出し、つくり出していく。

- 地域理解のための学習機会の充実
- 文化スポーツ活動を行う身近な拠点づくり
- 地域ごとの文化活動の活性化
- 全国にアピールできるトップレベルのスポーツクラブ育成

など



日光杉並木